

特定非営利活動法人

日本小児循環器学会 理事会 (2019.8—2021.7)

2020年度第3回理事会 議事録

1. 日時：2021年3月20日(土) 17:00~19:45
2. 場所：株式会社国際文献社会議室およびweb会議 (zoom使用)
3. 出席者

理事総数：20名、出席予定理事：18名、欠席予定理事：2名

理事長：坂本喜三郎

副理事長：山岸敬幸

理事：鮎沢衛、赤木禎治、岩本眞理、賀藤均、城戸佐知子、白石公、鈴木孝明、須田憲治、土井庄三郎、豊野学朋、中野俊秀、檜垣高史、三浦大、三谷義英、安河内聰、山岸正明、

(欠席) 住友直方、(欠席) 芳村直樹

監事：市田露子、富田英

幹事：増谷聡、宮崎文、水野芳子

4. 議長：理事長 坂本喜三郎

5. 議事の経過の要領及びその結果

定刻となり定款第26条3項により坂本喜三郎理事長が議長となり、開会を宣言した。議長より本理事会は定款第27条2項の規定に定める定足数を満たしており適法に成立した旨の報告があった。議長より、本理事会の議事録署名人として鮎沢衛理事、赤木禎治理事が選任された。また、本理事会はweb会議を併用するため議長が、出席者の発言が即時に他の出席者に伝わり出席者が一堂に会するのと同等に適時適格な意見表明が互いにできることを確認し、議事に入った。

6. 前回の議事録の確認

坂本理事長より、2020年度第2回理事会議事録の確認が行われた。

7. 審議事項

第1号議案：第60回(2024年)学術集会会長の理事会推薦者選出について(坂本理事長)

**提案内容**

第60回(2024年)学術集会会長の理事会推薦者を選出し、次回の総会に提案したい。三谷義英理事、先崎秀明氏、須田憲治理事の3名の立候補があった。各々1分程度のプレゼンテーションの後、立候補した理事2名を除き本日出席の理事16名で無記名投票を実施し、過半数に満たない場合は、上位2名で決選投票を行い選出することを事前に確認した。

**投票結果**

投票の結果、第60回学術集会会長の理事会推薦は須田憲治理事に決定した。

第2号議案：2021年度予算申請状況と予算立案の方針について(財務：城戸理事)

**提案内容**

収入は予算に達しており、また、第56回学術集会からの収入があった。三カ国フォーラムに対して今年度は240万円、その後年80万円の積見立てを支出予定。各委員会から会議開催方法等予算申請内容について確認をした。正確な決算は次回報告の予定。各委員会からの予算申請確認内容と予算執行の現状について承認を得たい。

**議決結果**

全員一致で承認

第3号議案：社会貢献委員会の設置について（学術：土井理事）

**提案内容** 脳卒中循環器疾患対策推進基本計画における取組として、PH Japan の経験をもとに、学校教育現場との連携（講演・出張授業など）を深めるための社会貢献委員会を設置したい。

**討議内容** ・委員会設置については次回の理事長・理事選挙の後8月以降になるのではないかと。  
・社会貢献委員会という名称は漠然としている。活動内容を反映する名称にしたほうがよい。

**議決結果** 活動は継続し、8月以降の新体制で学校教育現場と連携する委員会を正式に設置する方向性が全員一致で承認された。委員会名称は今後検討する。

第4号議案：第11期専門医試験結果および専門医合格者について（専門医：鮎沢理事）

**提案内容** 3月に第11期専門医試験を実施した。緊急事態宣言のため初の試みとして4か所の会場で実施した。受験申請53名中3名が翌年受験へ振り替え、50名が受験し、44名合格した。その可否判定方法、専門医合格者について承認を得たい。

**議決結果** 全員一致で承認

第5号議案：倫理委員会規定の変更について（医療安全：赤木理事）

**提案内容** 「倫理委員会規定」及び「医学研究および発表される医学研究論文・演題に関する倫理指針」について、引用を文部科学省及び厚生労働書の最新の指針に準じた文章表現への変更案について承認を得たい。

**議決結果** 全員一致で承認

第6号議案：利益相反「共通指針」および「細則」の改定について（医療安全：赤木理事）

**提案内容** 利益相反「共通指針」および「細則」について、日本医学会医学研究「COI管理ガイドライン」及び日本内科学会の「共通指針」改定に伴い、当学会も改訂する案について承認を得たい。

**議決結果** 全員一致で承認

第7号議案：YIA募集要項について（顕彰：豊野理事）

**提案内容** YIA募集要項における「オンライン掲載日」の基準について、「オンライン掲載のある論文では、オンライン掲載日（pre-proofの掲載であってもDOI）を付与された日）を発表日とみなす」と（ ）内を付記することについて承認を得たい。

**議決結果** 全員一致で承認。今月中まで募集している今回のYIAから適応する。

第8号議案：英文誌JPCCSのPubMed掲載とImpact factor (IF)取得について（編集：須田理事）

**提案内容** 英文誌JPCCSのPubMed掲載とIF取得を本学会の目標とするか審議したい。

**討議内容** ・PubMed掲載の手続きには約80万の費用と期間がかかる。投稿論文の数も必要。  
・IF取得を目指すためには、“引用されにくい論文（症例報告）を掲載しない”“学会和文誌に症例報告を掲載し、英文誌にIF取得を目指す論文を掲載する”等の対策案があげられる。  
・現状のままでは論文掲載誌について、中国が主導権をとっていく可能性が高い。

**議決結果** PubMed掲載と英文誌でImpact factor取得を目指す方向性について全員一致で承認。具体的方策は今後更に審議する。

追加議案1：新規研究課題Aの採用について（研究：土井理事）

**提案内容** 現在研究課題Aは3題に助成しており、新たに3題の応募があった。現在助成中の3題の研究は現在進行形であり、研究委員会の助力もあり進捗がみられるため、継続を認めたい。

さらに 2021-2023 年度に新採用課題を 1 題ずつ採用したいが、その場合、一時的に 300 万円の年間予算に対し 400-500 万円の支出となるが、現在の課題が終了する 2 年度後には 300 万円に復する。この状況で一年度につき 1 題の課題を新採用として継続することの承認を得たい。

**議決結果** 全員一致で承認

追加議案 2 : 研究助成の間接経費について (研究 : 土井理事)

**提案内容** 研究助成の間接経費について「助成金は全て研究に関する直接経費として使用されることが望ましいが、施設の規定がある場合は、課題研究委員会の責任者及び助成管理施設の経理担当者と研究委員会の協議により間接経費の割合を決定する」という文言を「補助規定」に追加することについて承認を得たい。

**議決結果** 全員一致で承認

追加議案 3 : 評議員任期更新に関する「定款施行細則」の適応時期について

**提案内容** 理事会での承認を得て「定款施行細則」評議員任期更新に関する条件を変更したが、まだ評議員に周知していない。次回の評議員任期更新から適応でいいか審議したい。

**議決結果** 2021 年度の評議員、総会で周知した上で、その次の更新から適応とすることで、全員一致で承認

## 8. 報告事項 :

### ・理事長報告

- 1) 持ち回り理事会報告 : 特になし
- 2) 要望書提出について (2020 年 12 月~3 月)

Z-5 カテーテル早期承認の要望書を厚生労働省・PMDA へ提出し、3 月末には流通が可能になる見込みである。今回の対応により、全面回収となったメドトロニック社 Rashkind カテーテルの在庫がある間に、新デバイスが日本で使用可能になった。各位のご協力に感謝したい (富田監事)

- 3) 学会名変更のアンケートについて

評議員に対して、学会名変更についてのアンケートを実施した。その結果、変更すべき 170 名 (54.3%) 変更必要なし 75 名 (24.0%) どちらともいえない 68 名 (21.7%) だった。意見として、「小児循環器」を残したいが、企業からの協賛が得られないなら仕方ない、日本循環器学会・成人先天性心疾患学会があるので、きちんと「小児」を表現し、企業の姿勢を問い質す必要もあるのではないかと、等があった。以上より、学会名の変更は時期尚早と考え今後の検討課題としたい。

この結果は、学会 HP に掲載し評議員及び学会員に報告する。名称から「小児」を除いて「成育」と表現すれば企業の協賛が得られるようになるのかについても確認する必要がある。

### ・学術集会会長報告

- 1) 第 56 回学術集会会長報告 (山岸正明理事)

医師の参加が 1,347 人で、644 万円の収益があった。オンデマンド視聴では、特別講演、シンポジウム等に 13,629、今野草二先生特設サイトに 5,830 と多数のアクセスがあった。デジタルオーラルは開催期間を過ぎるとほとんどアクセスはなかったが、総合してハイブリッド型学会の参考となる参加及びアクセス数等のデータが得られた。

- 2) 第 57 回学術集会会長準備状況報告 (白石理事)

例年協賛を得られている企業から得られないケースもあり、予算確保は目標の6割程度である。開催内容をかなり絞る必要があると予想される。

### 3) 第58回学術集会会長準備状況報告（土井理事）

事務局担当業者を決定した。北海道及び札幌からそれぞれ助成金700万を得られ、現段階では順調に進んでいる。

#### ・委員会報告

##### 1. 学術エリア（担当：土井理事、三谷理事、山岸正明理事）

###### 1-1 教育委員会報告（稲井委員長 代：土井理事 外科系：中野理事）

内科系教育委員会：ベーシックコース、アドバンスコースの教育セミナーをオンラインで開催した。

2021年2月はオンラインで開催した。以降のセミナーは、世話人を決定した。

外科系教育委員会：年複数回のwebinarでの教育セミナーを開催予定である。

###### 1-2 ガイドライン委員会報告（豊野理事）

「川崎病急性期治療のガイドライン」改訂版「学校管理下AEDの管理運営に関するガイドライン」「学校検診2次検診対象者抽出のガイドライン」「胎児心エコー検査ガイドライン（第2版）」を英文化する予定である。その他、主要関連学会と連携しガイドライン作成を継続している。

###### 1-3 研究委員会報告（先崎委員長 代：土井理事）

現在課題研究Aに3題の応募がある。今後審査、採用手続きを行う。また、課題研究Aにおける間接経費にかかわる取り決めについて検討した。（追加審議事項1,2）

###### 1-4 学術集会企画委員会報告（笠原委員長 代：土井理事）

第57回学術集会について学会主導企画を開始した。また第58回学術集会のためのコーディネーターの選出について検討中。

###### 1-5 疫学遺伝子形態データベース委員会報告（犬塚委員長 代：土井理事）

論文投稿及び新規研究計画、学術集会標本展示テーマ検討、実態調査等について検討中。

###### 1-6 関連学会ジョイント講演選定委員会報告（土井理事）

AHA2021、AEPC2021、日本心臓病学会、TSPC等におけるジョイントセッション座長及び演者の選定を行っている。

##### 2. 次世代エリア（担当：坂本理事長、山岸敬幸副理事長、岩本理事、芳村理事）

###### 2-1 将来計画委員会報告（坂本理事長）

次の学術集会に対するCOVID-19の影響はまだはっきりしていない。経過をみて対応を考慮する。学会資料のクラウド化、“Dropboxを先に定めた7名で運用開始”について、国際文献社は現在の事務契約の中で可能であることを確認したので、開始したい。

###### 2-2 次世代育成委員会報告（芳村理事 代：坂本理事長）

JCVSDを用いた国内各施設の手術例数・重症度・治療成績を、手術件数50件以下とそれ以上で比較検討した解析結果を論文化する予定。

###### 2-3 働き方改革委員会報告（岩本理事）

小児循環器に関わる医師の労働環境に関するアンケートを実施した。今後論文化する予定。

評議員は女性医師の割合が低く、特に40代医師会員では女性が26%にたいし、評議員は8%と少ない。今後、評議員における女性医師比率の適正化を発信し続ける。

2-4 多領域専門職委員会報告（仁尾委員長 代：山岸敬幸理事）

第 56 回学術集会多領域参加者へのアンケート結果の検討、次回学術集会への参加について意見交換を行った。3/26 を初回に定期的に多領域ミニカンファとして webinar を開催予定である。次期評議員に 3 名が立候補予定。

3. 専門医エリア（担当：鮎沢理事、中野理事）

3-1 専門医制度・認定・試験委員会報告（鮎沢理事）

第 11 回専門医試験を COVID-19 の流行に伴い 4 会場で実施した。

日本専門医機構からの連絡により、小児科学会を中心とする小児関連サブスペシャリティ連絡協議会を形成し説明会に参加、申請書を作成し提出した。

3-2 専門医カリキュラム委員会報告（麻生委員長 代：鮎沢理事）

小児循環器専門医修練目標の確認を行い、専門医試験開催について討議した。

4. 保険診療臨床試験エリア（担当：三浦理事、住友理事）

4-1 保険診療委員会報告（小野委員長 代：三浦理事）

2022 年度診療報酬改定に向けて、「低酸素療法」「心筋電極を用いた両心室ペースメーカー移植術及び交換術の施設基準改定申請」「心筋電極・皮下植込型リードを用いた植込型除細動器移植術及び交換術の施設基準改訂申請」「心筋電極を用いた両心室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び交換術の施設基準改訂申請」の 4 点を提出した。また他学会から「成人移行支援連絡指導料 1・2」の提案があり共同学会として参加した。

4-2 臨床試験委員会報告（三浦理事）

治験促進運動として現在 7 つの治験の支援を行っている。また、世界の医療機器市場の拡大が予想される中、AMED が医療機器開発において学会との連携を進める手引きを作成し、その中で小児循環器学会の治験推進運動が例として紹介された。

4-3 薬事委員会報告（坂口委員長 代：三浦理事）

$\beta$  遮断薬添付文書改訂の要望、イパブラジンの小児適応取得への活動を行っている。

4-4 医療材料機器・HBD 報告（杉山委員長・安河内理事 代：三浦理事）

Sapiens3 導入に伴い関連学会と合同で、施設及び術者認定に関わる経カテーテル肺動脈弁留置術管理委員会の設立準備を行った。

5. 社会制度エリア（担当：白石理事、賀藤理事、檜垣理事）

5-1 小児慢性・難病対策委員会報告（檜垣理事）

小児慢性・難病については、制度に大きな変更点はない。

川崎病性巨大冠動脈瘤については、関連学会などと指定難病申請中。

5-2 移行医療委員会報告（城戸理事）

学会「一般向け HP」の原稿作成中。

5-3 学校検診委員会報告（牛ノ濱委員長 代：白石理事）

2019 年に学校検診の現状把握のために実施したアンケート結果を踏まえ、アンケートの継続、学校検診の方法等を検討した。

5-4 蘇生科学教育委員会報告（太田委員長 代：檜垣理事）

「学校管理下 AED の管理運営に関するガイドライン」英文化については新潟大学高橋医師の費用

協力により進行中。

## 6. 医療安全・倫理エリア（担当：赤木理事、賀藤理事）

### 6-1 医療安全委員会報告（田中委員長 代：赤木理事）

### 6-2 倫理委員会報告（前田委員長 代：赤木理事）

「孤立性右室低形成の疫学と予後調査」（アンケート調査）を開始した。

他1件の倫理審査申請があった。

### 6-3 利益相反委員会報告（中島委員長 代：赤木理事）

利益相反「共通指針」および「細則」の改定について検討した。

## 7. 移植委員会（福畠委員長 代：鈴木理事）

国内小児臓器提供・心臓移植の現状、小児心臓移植施設認定審査の報告があった。

一時VAD患者を日本全体でサポートするためのルール作りの可能性について昨年末にアンケートを実施した。

EXCORレジストリが大阪大学及び国立循環器病研究センターで、倫理委員会の承認を得て開始される。

## 8. 総務エリア（担当：安河内理事、豊野理事）

### 8-1 総務委員会報告（豊野理事）

Dropboxを使用しクラウド運用試用を総務委員会で行ってきたが、今後は学会全体へ拡大する方針が確認された。まずは試験的運用で定めた7名の管理者で、国際文献社の事務委託契約の中で運用を開始し、順次運用上の事務作業を見ながら委託契約の見直しを進める方針と理事長から説明された。

次期委員会への引き継ぎのため、各委員会の業務内容と年間作業スケジュールについて次回の理事会までに作成して提出することが理事長から改めて指示された。

分科会は規約により理事会及び評議員会への報告が定められているので、未提出の分科会へ提出を依頼する。

### 8-2 顕彰委員会報告（平松委員長 代：豊野理事）

各賞の募集を開始した。また、YIA募集要項について検討した。

## 9. 渉外委員会（担当：安河内理事）

海外学会(AHA, AEPC, TSPC)のジョイントセッションなどについては、企画及び招請講演者への謝礼などについて連絡調整中。（資料参照）

今後学術委員会との業務分担についても協議を進める。

若手研究者交換留学制度は、AHAは2020年度募集中止、2021年度は7月に再検討予定。AEPCは2020・2021年度募集中止。

## 10. 編集委員会（担当：須田理事）

和文誌36(4)及び「胎児心エコー検査ガイドライン」を発刊した。

関連学会より

- ・日本循環器学会・日本川崎病学会・日本小児科学会（三谷理事）

第57回学術集会において「脳卒中・循環器病対策基本法後の移行医療支援：成育基本法、難病対策との関連も含めて」のテーマで特別企画を検討中である。

9. その他 理事からの意見

- ・第57回学術集会での評議委員会の開催形式をどうするか決定して頂きたい。
- ・学会として、学術集会のあり方をどのように考えるかも重要。学術集会企画委員会と学術委員会の協働が大切である。

10. 次回理事会について：

次回理事会は、2021年6月を予定している。3月中に日程調整する予定。

11. 閉会

以上をもって本日の議事を終了とし、議長から議事への協力に謝辞があり、閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人がこれに押印する。

2021年3月20日

議長

坂本 喜三郎

議事録署名人

鮎沢 衛

議事録署名人

赤木 禎治

(以下余白)